

書評

工藤翔二 監修
木田厚瑞, 久保恵嗣, 木村 弘 編

チーム医療のための呼吸ケアハンドブック

福井大教授・基礎看護学

長谷川 智 子

複雑化, 高齢化する呼吸器疾患患者のケアには包括的呼吸ケアが必須であり, その包括的呼吸ケアを実践するためには, 病院内の医療チームのみならず, 訪問看護ステーション, 保健施設を含む地域医療チームの協力が不可欠である。本書は, 監修を担当された工藤翔二氏, 編集を担当された木田厚瑞氏, 久保恵嗣氏, 木村弘氏という, わが国の呼吸器診療のエキスパートに加え, さまざまな領域の呼吸ケア専門家が包括的呼吸ケア提供のためにまとめた1冊であり, 呼吸ケアを提供するすべての医療者が利用できるハンドブックである。

日本における呼吸器ケアは, 近年, 劇的に変化し続けている。その背景には, 患者の高齢化, 疾患の複雑化・急性化, 診療報酬の改正による在宅酸素療法と呼吸リハ

ビリテーションの保険適用化, 呼吸機能を支える医療機器の劇的進歩など, 多くの要因がある。呼吸ケアにかかわる医療者は, さまざまな背景を理解した上で幅広い領域での知識と技術を持ち, 患者・家族に合わせた包括的な医療を提供する必要がある。本書ではまず, 呼吸ケアの軌跡と課題がわかりやすく述べられ, 続いてチーム医療としての呼吸ケアのあり方が述べられているため, 近年の動向と今後のめざすべき方向性が理解しやすい。

具体的な内容をみると, まず, 呼吸ケアにおけるアセスメントとして必須の身体所見の解析・呼吸機能検査・血液ガスなどが要領よく説明されている。次に各章において, 薬物療法, 運動療法, 栄養療法, 禁煙教育, 在宅酸素療法, 在宅人工呼吸療法など, 呼吸器疾

患に対する重要な治療法がわかりやすく要点を押さえて記述されているため, 医療提供者のみならず, 患者・家族への教育としても活用できる内容となっている。本書の後半には, 感染症対策とリスクマネジメント, 患者の心理・QOLの評価方法, および倫理的な課題が述べられており, 慢性呼吸器疾患患者およびその家族が円滑に質の高い生活を保つための援助方法がわかりやすく解説されている。本書の最後には, 疾患別呼吸ケアのあり方について, 各呼吸器専門医がその知識と技術を生かしたケアのポイントを解説しており, この1冊でかなりの領域の呼吸器疾患ケアを知ることができる。

呼吸器疾患に携わるすべての医療専門家が本書を活用することで, 一人でも多くの呼吸器疾患患者が質の高い包括的医療が受けられるようになることを期待したい。

〔A5 頁312 2009年 定価
4,410円(本体4,200円+税5%) 医学書院刊〕